

平成最後のチャレンジの話

昨年は何かと「平成最後の」という枕詞が流行りました。そんな最中、年末に立ち寄った書店でこれまた流行りの占い師の本が平積みされているのを手に取れば、私の 2019 年は「チャレンジの年です」と書かれていました。この歳になりますと、公私ともに何かと澱も積み重なって、「もう面倒だから早めに消えちゃってもいいかな」などと脳裏に浮かぶ事もあるものです。なのに、なぜ今チャレンジ？と、ちょっとした可笑しみを感じてつい買って帰りました。そこで新年気分も手伝って人並にあれこれ抱負じみた事を挙げてみたりもしました。なのに、凶らずも最初のビッグチャレンジは、何と仕事を休む事でした。

私の診療科は医師ひとり体制なので休めば代わりは居ません。相方の専従ナースに頼りきっても自分が休めば難しいことになります。だから風邪をひいても親が死んでも休まない、を通してきました。ところが先日、余りに体調が悪いのでまさかと思って検査をしたらインフルエンザ A 型陽性が出てしまい、その場で強制帰宅と出勤停止を喰らいました。まあ結果は予想していたし、エイヤと思ったところがチャレンジだった訳なのですが。

ほぼほぼ 1 週間現場を空にした後で分かったのは、「なんだ、休めばよかったんだ」という当たり前のハラ落ちに過ぎません。症状ピークの 3~4 日間、トイレと補給以外小さくうずくまって寝ているしかないのには閉口しましたが、休むことに気負う必要なんてなかったじゃないかと気付いた事の方が大きかったです。この間、特定の仲間達に急で大変な負担をかけてしまい、また外来予約ドタキャン等でご心配をおかけした皆様には深くお詫び申し上げます。しっかり休めたお陰で、周りへの感謝も深まり、変な自己憐憫も不要な事がハッキリしました。

吉凶の別れるチャレンジは、やってみなければ分からない。ここで得られた体験は、今まさに旬である働き方についての議論に関する、私の従来の考えをより確かなものにしてくれた事は間違いありません。その辺のことはまたの機会です。